

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社すこやかさん		
事業所名	グループホームすこやかさん		
所在地	千葉県香取市与倉869番地1		
自己評価作成日	2021年2月10日	評価結果市町村受理日	2021年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2021年2月	書面(文書)評価	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防の為、遠方の外出や面会の自粛をしていますが、日常生活に不安やストレスがない様、本人ペースで家庭的な雰囲気の中、過ごしていただいています。ご家族へもテラスにて窓越しの面会を勧めたり、電話やメールでいつもより頻繁にご様子を報告するなど、ご安心いただける様、努めていきます。四季折々の行事食も目で楽しんでいただき、納涼会では屋台風たこ焼きなど、職員手作りの軽食も楽しんでいただきました。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染を防ぐ基本的な対応がしっかりと行われている。アルコール消毒によるホームの清掃を徹底し、職員の出勤時には検温と手洗い、うがいを励行。家族とはテラスを利用したガラス戸越しの面会とし、電話での回数を増やすとともに、毎月の便りに利用者の日常や行事参加の様子を細かく報告している。外出行事は中止したものの、利用者の気分高揚のために恒例のビッグイベントは実施した。スイカを頬張っている笑顔の納涼祭、表彰状を前に笑顔の敬老会、優勝チームの笑顔の運動会表彰式。それぞれ利用者の満面の笑顔が写真に納まっている。コロナに負けまいとする利用者・職員の一体となった頑張りを感じられる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット内に掲示し、日々ケアの中で気づき等から、処遇についてその都度話し合いを持ち、実践につながるよう努力している。	理念は毎朝の申し送り時に職員が交代で読み上げ、共有と意識づけを行っている。	新型コロナ禍のために、文書（書面）評価とした。事業所より提出いただいた①自己評価・②追加提出資料・③家族アンケート結果④その他資料を基にメールでの確認も行い実施した評価である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は地域の方々に施設行事に参加いただいているが、今年度はコロナ感染予防の為、自粛している。	今年度はコロナ感染防止のため自粛している。コロナが収まれば自治会や小中学校との交流、ボランティアの受入れ等、従来の地域との付き合いを復活したいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、職場体験学習などで、認知症の方と関わりを持つ事で、理解いただく機会を設けているが、今年度はコロナ感染予防の為、自粛している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、施設関係者のみで電話やパーティーションの対応で個々に説明対応をした。コロナ禍について施設の状況を説明し、意見や希望を聞き取り、議事録にまとめた。	コロナ禍のため今年度は1回とした。一部の家族とは電話やパーティーションを使つての意見交換を行った。通常参加いただいている市役所と民生委員の方には議事録を届けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会では、文章アンケート形式で施設状況、対応について連絡を行った。ケア会議、ケアマネ連絡はリモートにて参加した。	市の窓口の高齢者福祉課とは、相談事があれば直接訪問したり電話で相談したりしている。市内の他のグループホームとも緊密な連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的に行っており、全職員が身体拘束について理解している。車椅子の方、徘徊のある方でも、テラスより出入りを自由にしていただき、危険のない様、寄り添い支援している。	運営推進会議を利用して身体拘束防止委員会を開催し、身体拘束をしないケアに努めている。入居間もない家族には、身体拘束をしない取組について対面で説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学習し、周知徹底しており、日頃から入居者様の尊厳を守り、共に支え合っていく事が虐待の防止につながると考えている。声掛けや言葉遣いについても職員間で話し合いを持ち、振り返りを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前には成年後見人制度を利用されてた方も居た。職員も資料や会議の場で学んでいる。ご家族より質問があれば説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にも締結、解約について説明し、締結、解約にはその理由と疑問点を尋ね、十分な説明をし理解を得る様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の際のアンケートでも意見、要望を表せる機会がある。評価後にはそれらを職員と話し合い、運営に反映させている。また、苦情箱を設置しており、その旨、ご家族にも伝え説明している。	短時間ではあるが、家族とはガラス越しの面談を通じて、できる範囲で意見交換をしている。さらに従来より電話回数を増やしたり、毎月の便りを利用して、利用者の状況を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング、連絡ノートを活用し、意見の出やすい仕組みを作っている。意見や提案は月1回のミーティングで検討し話し合いを行っている。	職員の意見は仕事の中で聞いている。利用者のストレス解消のため、職員の提案したレクリエーションを取り入れた。人事考課制度はある。職員の研修や資格取得に対しては補助制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の個々の意見や提案、職場の環境の把握に努めている。改善が必要な場合は要望していくように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修を受ける機会があり、職員のスキルアップの為、国家資格の受験の勉強が出来る環境を提供している。外部研修で学んだ事を他の職員に伝達するよう内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やケアマネ連絡会、ネットワーク会議等で情報交換を行いサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前の本人の情報を収集しておき、うまく表現できない場面でも、困っていることなどを引き出す努力をしている。また安心してお過ごし頂ける様、職員間でも情報を共有し、同じ対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報からも困っている事を職員間でも共有しておき、全職員がその時々で、家族より不安なこと等に傾聴しながら、関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報から分析しておき、必要なニーズを把握する。その時、必要としている事を本人と家族より傾聴し、できるだけ早くその時まず必要なサービスを取り入れる努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人が出来るような環境に工夫し、利用者同士、利用者と職員がお互い教え合ったり、励まし合える場面をそれとなくつくり、関係がつかれる様、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月のお便り等ご本人様の状態を伝えながら、ご家族様の意向を伺っている。ご家族様が出来る事は協力して頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力のもと、外出や外泊をされたり、利用者様それぞれの生活習慣を尊重し、面会時はゆっくりと過ごして頂ける様な環境作りをし、関係が継続されるよう支援している。	今年度はコロナウィルス感染症の流行により来訪者を制限し、テラスからガラス戸越しの面会を行った。毎月のすこやかさん便りには行事毎や普段の様子の写真を添えて家族に送付し関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し配席にも配慮したり、お互い助け合ったり、支え合える様、付かず離れず見守りつつも、職員が自然な支援が出来る様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後しばらくしてから亡くなられた方にも、弔問に伺ったり入院中であれば時々お見舞いにも伺い必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される時点でも家族やご本人から十分に話を聞き意思疎通が難しくなっても以前の様子をふまえ、個々の関わりから把握に努め本人本位の支援につなげる努力をしている。	本人・家族から思いや希望を聞き気持よく過ごせるよう話し合っている。日々の生活の場面でコミュニケーションを取り思いを聞いている。意思疎通が難しい方には表情や仕草から思いを汲み取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話や様子などの他、ご家族や知人からも面会時の会話から聞き取る努力をし把握に努めケアプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の経過は申し送りを通して共有し気づきがあれば、その都度全職員でミーティングや業務日誌を通し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、ご本人の日頃の状態と変化についてもよく説明した上で、意見を引き出す努力をし職員間でも日頃の様子、モニタリングを共有しミーティングにて十分検討する。その上で意見等を反映させ介護計画を作成する。	本人・家族から生活歴や思いを聞き、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。介護計画書が現状に即しているか定期的にモニタリングし、問題があればミーティングで検討し見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に重点をおき、気づきや特変については様子を細かく記入し、職員間でも共有している。業務日誌については意見、気づき等なんでも自由に記載し生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防の為、例年のデイサービスとの交流について、自粛しているが、希望があれば同性による入浴介助、OTIによるリハビリが受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、地域の方々の慰問について自粛しているが、以前の慰問の様子を写真でみたり、行事などではホーム職員が余興を行うなど、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの掛かりつけ医を受診されている方がほとんどで、時間外でも指示を仰げ、往診も受けられる。認知症サポーター医も多く、長年の掛かりつけな為、以前からの状態で指示を頂け、医療につなげている。	入居前からのかかりつけ医を受診することで、以前からの状態もわかり本人・家族の安心に繋がっている。受診には家族か職員が同行し受診結果や情報は共有され、適切な医療が受けられる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より個々の情報は伝えており、夜間でも電話による指示も可能となっている。また併設のデイサービス看護師にも相談に乗って貰え、指示があれば直ちに通院できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携シートA表を提示し、直接十分な説明を行っており、退院の予定が決まれば地域医療連携室のMSWと連携を取りスムーズに退院できる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族の希望を聞き話し合った後、掛かりつけ医に報告し、医師・家族・本人と話し合いを持っている。事業所で出来ることを十分理解して頂き、住み慣れた場所で出来るだけ生活いただける様、他職でも連携し支援できるよう努めている。	入居時に重度化した時の意向や希望を聞き、ホームでの対応も説明している。必要時は早めに話し合う機会を持ち、過去の看取りの経験から医療関係との連携もできている。本人・家族の希望に添えるよう取り組んでいるが今は対象の方はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、日頃より起こりうるであろう急変時についてもミーティングにて確認している。救急法についても定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署立ち合いの避難訓練を実施。その他、地震・台風・火災を想定した避難訓練を全利用者・職員が参加し避難法を身に付ける努力をしている。また地域の方への協力も呼び掛けている。	年一回は消防署立ち合いで避難訓練を実施し、自主訓練も行っている。今年度も利用者と一緒に災害訓練を行い、家族・職員の緊急連絡網の作成、食品、備品の備蓄を行い、地域との協力体制をお願いしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも礼儀を重んじ、呼びかけや会話に注意している。また研修も行っている。	一人ひとりのプライバシーを大切にし、名前はさん付けで呼び、入浴や排泄の誘導時の声掛けには配慮している。接遇マナーは研修に参加し、個人情報保護は職員会議でも話し合い、ケアに臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮がちな方、思いを表現できない方に対して、日頃の会話や様子から把握する努力をしている。本人の居室等を利用したりし、他者と離れて意思表示が出来る場を用意したり、質問の仕方についても答えやすく配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を要する事であっても、職員同士が連携、共有し、本人のペースで過ごせる様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや白髪染めの支援をしたり、お気に入りの服であれば清潔を保ち、繰り返し着られる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の中で面会は自粛しているが、家族から畑で採れた野菜などの差し入れがあれば、一緒に簡単な下ごしらえをし、調理方法も相談し楽しんでいる。	地域の方から野菜を頂いた時には下ごしらえや味付け等、出来る方と一緒に調理を行っている。季節の行事食を楽しみ、四季折々の食材を使った食事、手づくりおやつ等、食べる楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の食事を通して、一日の食事量と水分が確保出来る様、残食を観察し対応したり、間食も利用し対応している。栄養士とも相談し栄養に偏りが無い様、好みの物に代替えし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥による肺炎の予防につながることも理解し、必ず毎食後個々にあった支援をしている。またドライマウスや舌のケアも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや尿意のサインを見落とさない様な努力をしている。またできるだけオムツに頼らない二人介助でのトイレ介助で支援している。	個々の排泄パターンを把握し、仕草からもサインを察知し日中はなるべくトイレ誘導を行い排泄の自立に取り組んでいる。車椅子の方は2人介助で行うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による二次的な疾患についても理解し、医師に相談したり日頃から食材や水分補給などに配慮し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	コロナ感染予防の為、大浴場でのデイ利用の馴染みの方との入浴は自粛しているが、個人浴にて本人ペースで入浴を楽しんでいる。	併設のデイサービス大浴場の利用もできるが今年度は個別入浴を行い、体調や気分がすぐれない時には無理強いせず、翌日にしたり、本人ペースで支援している。入浴拒否の方には声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば朝寝や午睡など、様子をみながら支援したり、良質な睡眠が取れるよう、寝具(湯たんぽ等)や日中の活動についても配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認出来るよう、薬の説明書を配置し、疑問があれば直ちに掛かりつけの薬剤師へ確認をし、内服薬は一包化し二重チェックしている。症状について医師と相談し予め予測しておく等、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症が講じてきている方も増えているが、これまでの様子や、本人や家族との会話により、好きな事や役割について引き出し、楽しみや日々の役割を職員と共に行える様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、家族との外出は自粛しているが、施設付近の散歩は職員と1対1で行うなど、密を避けつつ、できるだけ支援している。	利用者の希望に添った外出支援や家族との外出も今年度は行えなかったが、日常の散歩は密を避け職員と一対一で出かけた。普段はスーパーへの買い物やドライブにも出かけているが今年度は自粛した。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、十分に家族と本人と話し合いスーパーなどの買い物も本人持ちの財布より支払できるよう支援し、金銭管理も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話を掛けたり、掛かってきた電話にもプライバシーに配慮し、ゆっくりと会話できるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、季節感のある装飾を皆さんとつくり、飾ったり、特に乾燥時期には、加湿、換気にも注意し、新聞などが読みやすい明るさにも配慮している。	共有空間には四季折々の飾り付けを利用者と共に作り楽しんでいる。今年度は換気を心掛け空調や明るさや音にも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫した。共有部分、居室の掃除や消毒も定期的に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で自席も決めてあるが、一人では席を移動したり、ゆっくり休みたい時には、一人になれる様、自室へ誘導し過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状況に応じて使い慣れた物、又、使える物などを配置したり、家族の写真などを飾り、過ごしやすい空間となる様にしている。	居室に置かれている家具や調度品は本人が使い慣れたものを持参している。写真や手作り作品等は家族と一緒に飾り、室内での転倒を防ぐ為、床には物を置かず本人が安心、安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線が直線の為、車椅子の自走や歩行がしやすい。また、居室の扉に名前を付け、自由に自室へ出入りし見守りもしやすい為、安全に自立した生活が送れる。		